

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201913		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌麻生 (ライラック)		
所在地	北海道札幌市東区北35条東1丁目5-7		
自己評価作成日	令和3年5月11日	評価結果市町村受理日	令和3年6月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosyoCd=0190201681-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年5月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

元気から看取りまでをコンセプトに、施設を通して医療依存度の高いお客様にも安心して生活ができるようにと、施設内に1日平均6名の看護師が稼働している中で、グループホームのご入居者様におかれても、少しの変調でもすぐに見てもらえる体制となっています。その実績として開設して3年の中で10名の看取りケアに携わらせて頂きました。引き続き往診医や訪問看護ステーションとの連携から安心して生活できる環境を提供してまいります。
また、重度化対応の為に設計された建物としてのエレベーター設置、全居室電動ベッド、特別機械浴の設置等、身体の状態が低下されても最期までケアに臨める環境も十分にございます。
認知症に関しては、施設の中でも認知症サポーター養成講座を開催するなど、専門分野を担当するうえで認知症理解を深める為の役割を担い、事業所内であっても、毎月の定例での虐待や身体拘束禁止に向けての研修や話し合いに注力を注ぎ、直近では「アンガーマネジメント研修」を開催、職員の認知症理解への学びの時間を計画的に設けています。
共同生活の場としては、ご入居者様が役割を担い、みんなの為に家事諸々を行い、自身のADL維持や認知症低下を予防するための生活リハビリを促進、残存能力を生かす取り組み意識を持って臨んでいます。
コロナ渦を経て再度、外出や地域交流、施設内交流や音楽療法の再開を行い、よりハリアのある生活と笑いを多くする他者交流の場を盛んに提供できるよう計画しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ツクイ札幌麻生グループホーム」は、地下鉄北34条駅から徒歩で10分程のバス通りに面している事業所で、近くにはスーパーマーケットやドラッグストア、コンビニエンスストアもあり生活の利便性に優れている。1階は小規模多機能事業所とデイサービスで、2階がグループホームになっている。建物内は清潔感のある広々とした造りで、居間と食堂を中心に居室が配置されている。壁には利用者と一緒に制作した桜など、季節感のある装飾がさり気なく施され落ち着いた雰囲気になっている。感染症の流行により運営推進会議は書面会議を開催しているが、事前に町内会役員に意見を聞いたり事業所報告と共に感染症や終末期ケアの情報を資料で提供するなど工夫している。前回の課題であった理念の共有と実践に関しても、毎月の会議で理念を唱和して内容を再確認するなど課題に前向きに取り組んでいる。毎月、計画的に勉強会を実施すると共に、夜勤以外の職員が参加して2か月ごとに身体拘束禁止委員会を開催するなど、職員の資質向上と育成に積極的に取り組んでいる。現在は、家族の安心感につなげられるように法人本部と相談してリモート面会なども始めている。ケアマネジメントの面ではセンター方式シートを活用して思いや意図に寄り添い、一人ひとりの利用者に応じた適切なケアに熱心に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内に掲示し、全体会議等で確認し共有を図っている。会議の時に理念を唱和している。	開設時に作成した事業所独自の理念に、「町内や自治体、医療機関などと連携を取り、地域に根付いた場を目指します」という文言が含まれている。前回の外部評価後、会議で理念を唱和して内容を再確認しながら全職員で共有できるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議では町内会長をはじめ民生委員も参加して頂いているが現在は書面開催にての意見交流を求めている。コロナ禍前には夏祭り	現在は、運営推進会議時に事前に町内会役員に意見を聞くなどの交流を行っている。感染症流行前は、デイサービスで開催されるボランティアによる楽器演奏や歌を楽しんだり、絵手紙教室などに参加していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアのあり方についてお伝えすることにより、地域に広がっていくよう努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回、計画的に開催しサービス提供の内容報告を行っている。現在は書面開催にて、ご家族様や委員の方には意見を頂けるようにしているが、意見が少なく報告が主になっている。	感染症流行前はテーマを設けて会議を開催し、会議案内と議事録を全家族に送付している。現在は書面会議を開催し、事業所の現状報告と共に感染症や終末期ケアなどの資料も送付して情報を提供している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初に空き状況を報告しております。札幌市からコロナクラスター時には応援要請がありました。PCRスクリーニング検査の協力要望があり行った	所長は新型コロナウイルス感染症のスクリーニング検査やワクチン接種の相談、介護保険制度などについて市役所に確認している。生活保護受給者の受診報告など、区役所の保護課と連絡を取ることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議の中で身体拘束廃止の取り組みについて研修等で確認している 職員全員が身体拘束ないケアを実践している 夜間は防犯上の目的で施錠している	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備している。身体拘束禁止委員会を2か月ごとに開催し、研修を行いながら拘束しないケアに取り組んでいる。委員会議事録と研修資料の綴り方を工夫し、分かりやすく整備したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を行い確認を行っている 利用者様の心身の状態を常に意識することや言葉使いや態度に注意を払い支援している 職員がストレスを溜めないよう良好なコミュニケーションを図るよう意識している		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての研修等は行っていない 現在、成年後見制度を活用されている方はいません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分理解して頂けるように説明している 解約、改定の際もその都度同様に十分な説明に努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書、契約書を読み合わせて説明を行い、質問には丁寧にお答えし理解、納得をいただいている。	年1回、法人主催の家族アンケートを実施している。家族の意見や要望は支援経過記録や個人記録に記入し、情報を共有している。毎月のユニット便りと共に、個別便りも発行したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご家族の来訪時には会話の場を持ち要望や苦情を聞き改善している。	所長や管理者は、毎月の会議や個別面談で職員の意見や提案を聞き取っている。職員の意向を聞いて備品を購入したり、新型コロナウイルス感染症対策や感染症流行時の散歩について職員の提案を活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業契約更新時には個別に面談を行い向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内では年間通して研修を行っているが外部の研修についてはコロナ禍にてオンライン研修が多くなっているが、機会を作れていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各区ごとに行われているグループホームの連絡会に参加したり、札幌市の管理者連絡会等に参加し勉強会等行っている 他事業所との交流がなされていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に施設見学をしていただいたり、実際に来る事ができない方へはこちらから訪問し、本人の困りごとを聞き今後の生活について十分話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様だけの面談や電話での相談を受け付けている。サービスを利用する不安や今後の生活での要望を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様との面談にて必要としている支援を聞き入れると共に状況、状態を見極め市町村独自のサービスの利用も取り入れられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おかずの盛り付けや洗濯物たたみ等、日々の生活の中で得意なことを引き出し、職員の見守りや一緒に行うことを基本とし、関りや会話を通し共に助け合いながら生活をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話やお手紙・広報等でご本人の状態を報告し日常生活の様子についてご家族と共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の前には友人がホームを訪れて交流する機会があったが現在は手紙等のやり取りではあるが続いている	知人や友人から手紙が届く利用者もあり、返事を書いたり絵手紙を送ることもある。感染症流行前は、家族と一緒に食事やドライブ、お墓参りに出かけていた利用者もいる。職員と一緒にスーパーマーケットに買い物に出かけることもあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の相性や生活も考慮し、食卓席の配慮やトラブルに発展する前の介入等に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族の心身状況を汲み取り電話での状況確認や支援・相談に応じるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や普段の様子から思いを把握し、本人の意思を大切に尊重しながら実現できるように支援している。ユニット会議にて話し合い意向に沿える支援のの提案を行っている。	感染症流行前は手を握るなどのスキンシップを重視し、会話や表情などから思いや意向を把握していた。センター方式シート(O-1-2)を活用して趣味や嗜好を記録し、変化に応じて追記したいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は生活歴等を記載して頂き、職員間で周知するとともに、本人との会話やご家族に確認したりと得た情報を基に介護計画書の作成を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報の共有、交換を行っている。日常生活の言動や行動を送り・連絡ノート、アセスメントに記載している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書を基本3ヶ月毎に見直しモニタリングを実施。ご本人・ご家族の要望や医療連携の指示等取り入れ、又職員間での情報をもとに介護計画書の作成を行っている。	利用者担当職員の評価を基に全職員で検討し、家族の意向を確認して計画作成担当者を中心に3か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録は、介護計画を意識しながらタブレット端末で記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、送り、連絡ノート等を活用し情報共有を行い、カンファレンスの中で意見交換を行いながら実践や介護計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内の看護小規模多機能やデイサービス等も視野に入れ今までの繋がりを断ち切らないことを考え取り組めるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍の為地域交流や参加はできていないが、訪問理美容の利用や1階にある事業所内のデイサービスの行事等に参加し交流できるよう支援していた。イベントとして桜の装飾を事業所内で作成して行った。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療及び必要時訪問歯科治療を行っている。医療連携により訪問看護師による週1回の健康管理を行っており、24時間連絡体制が整っている。	協力医療機関による内科の定期往診や必要に応じて歯科の往診を受けている。専門医を受診する時は殆ど事業所に対応し、主治医と連携して適切な医療支援を行っている。往診と受診は個別に記録している。	

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師により健康状態のチェックが行われ、ご本人や職員からの相談にも応じている。訪問診療の医師とは緊急時には24時間連絡がとれる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護・看護添書を病院に提出し病院と連絡をとったり、病院に面会に行ったり、CWと連絡をとるなど情報交換を行なっている。退院時は病院からの情報提供書を活用し連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明の際、重度化や看取りの指針を説明する中で本人がその状態になった時医師やご家族様と共に現状やこれからについての話し合いを行っている。又体調の変化やその時々状態に応じて再度本人や家族に確認や相談を行っている。	利用開始時に、「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って事業所で可能な対応について説明している。体調変化に応じて医師、家族、事業所で方針を話し合い、家族の意向に沿って看取りを行っている。看取り研修も定期的実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は都度実施する必要がある。連絡体制はとれている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を行い避難場所の確認や掲示をしている。自衛消防組織を編成している。また、災害時用の備品の保管を行なっている。	感染症流行のため、現在は職員のみでの自主訓練を実施している。地域住民や消防署の協力を得た訓練は今後の課題となっている。水害訓練や地震を想定したケア別の対応について職員間で話し合う予定である。	感染症収束後は、地域住民や消防署、防災設備会社などの協力を得て避難訓練を実施するよう期待したい。普通救急救命講習も、継続して計画的に進めるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活環境や性格を考慮し自尊心に配慮したケアを工夫している。身体拘束等の研修の中でスピーチロックについて職員間で話し合い気を付けている。	呼びかけは「さん」づけとし、内部研修で接遇やスピーチロック、NGワードについて学んでいる。利用者から聞こえないように申し送りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意見を確認しながら重視し、気持ちに配慮した支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々その人ペースで生活して頂けるように、声掛けを行いながら職員間でも状態に応じて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの好みに応じて、言葉掛けや見守りを行い、自己決定して頂けるように支援している。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを確認しながら提供している。又誕生日会や季節の行事等を楽しんでいただけるように支援している。盛り付けや食器拭き等状態に応じて行っている。	食材業者から献立と食材が提供されている。感染症流行前は利用者も下ごしらえなどを手伝ったり、一緒にお菓子を作っていた。現在は外食も難しいが、弁当や寿司の出前を取って楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分量を把握し不足しないよう確認支援している。低下が見られた際には形態の工夫や嗜好品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お客様の状態を考慮し、うがい・歯磨き・義歯洗浄等各自の力に応じた口腔ケア、清潔保持に努めている。夕食後義歯使用の方は預かり洗浄剤を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	場所を分かりやすくするためドアに目印を付けたり工夫している。排泄表を確認しながら声掛けや誘導支援を行っている。申送り表に排泄状態を記載して職員間で状態の把握を行っている。	全員の排泄状況を記録し、誘導や介助の必要な方はパターンに沿って声かけしている。誘導時は羞恥心に配慮している。利用者の状態に応じて、ベッド上で排泄用品の交換を行うこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や粉末の食物繊維・オリゴ糖を取り入れている。トイレ時に腹部マッサージ等を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を個別に実施している。その日の気分や体調に応じて時間や日にちを変えたりと対応している。	日曜日以外の午前中、各利用者が週2回程度入浴している。入浴を嫌がる場合は時間をずらし、体調に応じて入浴日を変えている。希望があれば同性介助に対応している。入浴後に好きな飲み物を選んで飲んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や活動量を確認しながら、休息時間を取って頂いている。臥床時間が長くないように声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をファイルに入れて確認している。変更等があった際には申し送りにて情報を共有している。個別の服薬一覧表を作成し服薬前に確認し、服薬もれや誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の思いを大切にしつつ、生活歴や状態を考慮しそれぞれに合った役割や楽しみを提供できるよう努めている。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて外出はできていない。施設周辺の散歩を取り入れ外気浴を行っている。	感染症流行により外出が難しくなっているが、事業所周辺の散歩を行っている。感染症収束後は、買い物や外食、年間行事などの外出を再開する意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の希望を伺い、管理が可能であれば少額所持できるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話で話をしたり、手紙が書けるように支援を行っている。リモート面会を検討している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置、音や光、温湿度の調整に配慮している。フロア内は全てバリアフリーとなっている。又季節に合った装飾を行い、季節感を感じていただけるように工夫している。	共用空間は清潔で日当たりが良く、居間にテレビやソファを置いてくつろげるようにしている。壁には桜や鯉のぼりなどの季節の装飾、日めくりカレンダー、利用者の写真などが飾られている。空気清浄機による感染症対策も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間同士で寄り添える場所や空間の確保に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご本人・ご家族で話し合い馴染みの家具や道具を持って来ていただき、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	居室には備え付けのベッドがあるが、状態に応じて床に布団を敷く利用者もいる。テーブルや椅子、仏壇、鏡台などを自由に持ち込み、人形や写真などもあって、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー・手すり設置により安心して移動できるようにしている。車椅子用のトイレも完備されている。フロア内に時計やカレンダーを置き日付の確認等が出来るようにしている。居室前に名札を付けて迷わないように工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201913		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌麻生 (すずらん)		
所在地	北海道札幌市東区北35条東1丁目5-7		
自己評価作成日	令和3年5月11日	評価結果市町村受理日	令和3年6月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsoyoCd=0190201681-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年5月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

元気から看取りまでをコンセプトに、施設を通して医療依存度の高いお客様にも安心して生活ができるようにと、施設内に1日平均6名の看護師が稼働している中で、グループホームのご入居者様におかれても、少しの変調でもすぐに見てもらえる体制となっています。その実績として開設して3年の中で10名の看取りケアに携わらせて頂きました。引き続き往診医や訪問看護ステーションとの連携から安心して生活できる環境を提供してまいります。
また、重度化対応の為に設計された建物としてのエレベーター設置、全居室電動ベッド、特別機械浴の設置等、身体の状態が低下されても最期までケアに臨める環境も十分にごさいます。
認知症に関しては、施設の中でも認知症サポーター養成講座を開催するなど、専門分野を担当するうえで認知症理解を深める為の役割を担い、事業所内であっても、毎月の定例での虐待や身体拘束禁止に向けての研修や話し合いに注力を注ぎ、直近では「アンガーマネジメント研修」を開催、職員の認知症理解への学びの時間を計画的に設けています。
共同生活の場としては、ご入居者様が役割を担い、みんなの為に家事諸々を行い、自身のADL維持や認知症低下を予防するための生活リハビリを促進、残存能力を生かす取り組み意識を持って臨んでいます。
コロナ渦を経て再度、外出や地域交流、施設内交流や音楽療法の再開を行い、よりハリのある生活と笑いを多くする他者交流の場を盛んに提供できるよう計画しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は各ユニットフロアに掲示している。又会議の時に唱和し共有に繋げている。コロナ禍ということもあり、地域に根差したという点ではまだ関わりを深めていけない点が課題としてあります。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現状は入居者様の外出支援自体が難しく地域との交流の場を作ることが難しいです。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症の勉強会を行っていたが、現在は書面開催になっており資料提供のみになっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面開催となっており書面にて取り組みや現状を伝えている。ご家族様や地域包括等へは意見書を送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して地域包括支援センターの職員への参加を促し関係作りに努めている。書面での意見を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議を通して2ヶ月に1回は身体拘束廃止委員会を実施している。全体会議の中で研修を行い勉強会を行っている。言葉による抑制(スピーチロック)にも気を付けるよう研修の中で話し合いをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行っている。虐待の研修だけでなく、アンガーマネジメント研修も行い防止に努めている。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している入居者様がない為、制度に関する勉強会は実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や重要事項説明書・重度化に関する指針など説明を行い、わからない所等確認をとりながら対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所入り口に意見箱を設けている。現状は運営推進会議にて意見書を配布しており、その中で意見や要望がある。反映できるように対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議等で運営に関しての意見を聞いたりしている。日常の業務の中で確認し対応できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間や働き方は可能な限り相談に応じている。定期的に面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内の研修を行い参加を促しておりますが、外部の研修は促せておりません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内のグループホームとの交流の機会はあるが、他事業所との交流は図れていない。現状は外部との交流はできていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や訪問の際に、ご本人の困りごとや想いを聴いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安なことや要望等を聴き、ケアに繋げていくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との話の中で、まず必要な支援を考え提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で得意分野を引き出し、職員見守りの中、関わりを大切に、共に行いながら談話を楽しむようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来訪時や電話でご本人様の日常生活状況を伝え、情報共有、相談をしている。ご本人様とご家族様の面会時には少しの時間、同席させていただき、双方の意思、要望確認を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係は途切れない様、電話や年賀状、お手紙で連絡を取り合っている。また、面会時間の制限は作らず、気軽に来訪面会できるよう支援しているがコロナの状況により面会は極力控えている現状。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は極力居室にこもらず、食卓兼談話室で過ごしていただき、脳トレや体操、家事を通して共に助け合い、相談しながらできるよう努めている。また、入居者様同士の相性も考慮し、トラブルに発展しないよう座席位置の考慮にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてご本人様、ご家族様からの依頼、要望があれば、心身状況を汲み取り、相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や様子から思いを把握し、ご本人様の意思を尊重し、できる限り実現できるよう支援している。困難な場合はご家族様の意向を第一に考慮し、職員間で共有し、支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は、ご家族様に生活歴等を記載していただき、職員間で周知すると共にご本人様との談話の中で知り得た情報等もご家族様に確認した上で記録に残すようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の言動、行動を申し送り表に記載し、職員間で情報交換、共有を行い現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人ひとり担当制にし、担当者は責任を持って3ヶ月に一度モニタリングを実施。ユニットカンファレンスで話し合い、ご本人様、ご家族様の要望や医療連携等の指示を踏まえた上で介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録、申し送り表、連絡ノート等を活用し、情報共有を行い実践や介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の生活状況の変化に応じてご家族様と相談し、訪問診療等の医療機関からの助言もいただきながら最適な生活を考えサービス提供ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容の利用や下階にあるデイサービス、看護小規模多機能等の行事交流を図っている。事業所全体で桜の装飾イベントを行い1つの目標に向けて共有して取り組んだ。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望確認を行っている。月2回の訪問診療、週1回の訪問歯科、訪問看護で健康管理に努め、医療連携は24時間体制が図られている。また、必要に応じて各科の受診も受けられるよう支援している。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の訪問看護の看護師が週1回定期的に健康管理に来ている。変化があれば伝達し情報共有に努めている。何かあれば、相談できる関係ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際には、ソーシャルワーカーと連絡を取り合い、情報の共有を図るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関する指針についてはご家族様へ説明し書面での同意を頂いている。終末期にかかってきた際は、ご家族の意向を確認し主治医を交えて方針の共有を図るように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡体制は整備している。今後は定期的に心肺蘇生の訓練を定期的に行っていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施しているが、火災の想定での実施だけになっている。地震や水害も想定した対策が必要と思う。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生活環境や性格を考慮した上で、自尊心に配慮したケアの工夫に取り組んでいる。個人情報には外部に漏れないよう徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思を最優先に考え、気持ちに寄り添い希望を叶えられるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、一人ひとりのペースで生活していただけるよう心掛けて支援している。今日は何が食べたいか？何をして過ごしたいか？等、時々問いかけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みや習慣に応じ、自己決定していただけるよう支援している。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握した上で平均をとって対応している。食事の下ごしらえや盛り付け、食後の片付け等は職員と共に行い、力を発揮していただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量摂取量の把握に努め、不足しないよう支援している。低下がみられた際は、個々の嗜好品を提供し、補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアの実施、できる限り自立を促し、状態に合わせ仕上げ介助している。夜間は義歯洗浄し、職員側でお預かりし、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、できる限り汚染なく過ごせるようトイレ誘導支援に努めている。トイレの場所に迷いが生じないようドアに目印を表示し、わかりやすくしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維、オリゴ糖等を取り入れ、排便促進に工夫している。また、3食前には30分程度のテレビ体操に参加していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を個別に実施している。個々の嗜好に合わせて洗剤類を使用し、体調や気分に応じて翌日に変更する等の対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や活動量を把握した上で休憩時間を設けている。臥床時間が長くなり過ぎて夜間の不眠に繋がらないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をいつでもすぐ確認できるようファイルを作成し、処方される度に最新情報を確認、情報共有している。また、重要事項や症状の変化については医療連携サービス記録や連絡ノートに記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮した上で、一人ひとりにできる役割や脳トレ、カラオケ、手先を使う季節の装飾作り作業等を提供している。また、嗜好品は時折お届けしていただけるようご家族様へ依頼している。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ここ一年間は新型コロナウイルスの影響により外出行事も出来ず、希望に沿った外出支援はできなかった。必要不可欠な外出受診の対応のみとなってしまった。ご家族様の面会もお断りしていた最中だった為、協力支援も得られない状況であった。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様やご家族様の意向を伺い、管理が可能であれば少額所持できるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様やご家族様の希望により電話はいつでも掛けられるよう対応している。手紙でのやり取りの支援も行っている。テレビ通話を検討している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、温度湿度調整に配慮している。個々によって感じ方が違う為、平均をとって対応している。共用スペースは季節に合わせた装飾を行い、季節感を味わえるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間同士で寄り添える場所や空間の確保に努めている。共用空間なので居場所は固定せず、その時の好みの場所で過ごしていただけるよう支援している。席の配置にも考慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様、ご家族様で話し合い、馴染みの使い慣れた家具等を持ち込んでいただき、居心地の良いスペースとなるよう工夫を凝らしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全面的にバリアフリー、手摺り設置により安全、安心して生活できるようになっている。各居室には表札と飾りを付け、わかりやすいよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 ツクイ札幌麻生グループホーム

作成日：令和 3年 6月 11日

市町村受理日：令和 3年 6月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	感染症収束後は、地域住民や消防署、防災設備会社などの協力を得て避難訓練を実施するよう期待したい。普通救急救命講習も、継続して計画的に進めるよう期待したい	地域の方やご家族様に参加して頂き実施する 職員がAEDをスムーズに使える 心肺蘇生ができる	・感染終息後の運営推進会議の時に避難訓練を実施することで町内会の方や家族様、地域包括の参加に繋げる ・全体会議の際に1年に2回程度は実施できるようにAEDの取り扱いと心肺蘇生の実施を行っていく	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。